

# 学力向上を目指す取組と効果的な事例

【蓮田市教育委員会】

## 1 本校の課題と取組

本校では、生徒の現状として、学習に対する意識と基礎学力は平均化すると高いものの、個々に見ていくと、表現力も含めた伝える力等に課題がみられる。そのため、昨年度より「学びを伝え合い、高め合う生徒の育成を目指して」の研究に取り組んでいる。新学習指導要領でも重視されている言語活動、コミュニケーション活動の充実を図り、表現力も含めた伝える力、他から受け取ったものに適切に反応し、考え、話し合う力の育成を目指して、全教科・領域で取り組んでいる。

## 2 具体的取組

### ① 語彙力を高める指導

- ◇全学年で国語の授業の最初に「漢字テスト」を行う。
- ◇年に2回の確認テストの実施
- ◇場に応じた正しい言葉の使い方の指導の実施

### ② 朝読書の充実

- ◇毎日15分間の読書をする。
- ◇文章〈本〉を読むことで、相手の考えを受け取る力を身に付けさせる。

### ③ 書く時間、考える時間の確保

- ◇書く活動を通して、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。

### ④ 話し合う機会の設定

- ◇各教科での話し合い活動の充実。
- ◇話し合いの機会を設定することで、考えを伝え合い、自分の考えを深める力を身につけさせる



## 3 各教科等の取組

〈各教科等を通して〉

毎時の授業のはじめに、達成目標を明確に示し、焦点を絞った授業を展開する。さらに、授業中に生徒が発表する機会を増やし、説明を聞く時間、情報交換する時間、考えをまとめる時間等、メリハリのある授業をが行っていくことで、一層生徒が分かる喜び、達成感を感じられるようにする。

- 国語
  - ・他人の考えや意見を正確に聞き取り、自分の考えとの比較などを通して、考えを深めたり広げたりする。
  - ・自分の考えをノートやプリントに書く。
  - ・クラスや班内で自分の考えや意見を発表する。

- 社 会
  - ・ 公民分野における討論を取り入れた学習を行う。
  - ・ 各分野における発表への相互評価を行う。
- 数 学
  - ・ 既習事項を使って、いくつかの考え方ができる学習課題を設定する。
  - ・ グループ活動等を取り入れ、自信を持って自分の考えを発表する場面を設定する。
- 理 科
  - ・ 班の中でお互い教え合い、助け合う場を設定する。
  - ・ プリントで良くできた例を示し、評価する。
- 英 語
  - ・ スピーチ、チャット、ALT のインタビュー等の場の設定
  - ・ ビデオ、文字おこし等によるフィードバック
- 音 楽
  - ・ 落ち着いた雰囲気鑑賞し、感じたことを進んで発表するようにする。
  - ・ 友だちの感想をよく聴き、受け取る。
  - ・ 直感的な感想とともに、じっくり聴き感じたことを発表することも大切なことを伝える。
- 美 術
  - ・ 手を使って何度も描く、作る、を繰り返し行う。
  - ・ 他の作品の良いところは自分の作品に取り入れる。
- 保健体育
  - ・ 練習カードにコツや実感を記録させる。
  - ・ 上手な生徒による模範演技とポイント説明をする。
  - ・ 授業の終末で練習成果を発表させる。
  - ・ ことばかけのモデルを示す。
- 技術家庭
  - ・ 相互交流の場の設定。
  - ・ 具体例の提示、発表会の充実。
- 道 徳
  - ・ 資料の精選
  - ・ 発問の工夫
  - ・ 話し合いの形態の工夫
- 学 活
  - ・ 少人数グループ活動
  - ・ 掲示物の工夫
  - ・ 係、当番活動の充実
- 総合的な学習の時間
  - ・ 新聞、図書室、インターネット等を活用
  - ・ グループ等の意見交換による思考の共通化と深化

#### 4 成果と課題

〈成果〉

- ① 静かな環境の中で行われる朝読書を1日のスタートとして大切にすることで、「読書を全くしない生徒」の割合が1.1%まで減っている。全体的に読書時間が増加し、生徒の知的好奇心、学習意欲が向上したといえる。
- ② 家庭学習時間においても、「1日全く(殆ど)勉強しない」の割合がかなり減り、学習環境の整備や、職員の指導の改善がよい影響を及ぼしていると考えられる。
- ③ 各種調査での無回答率が減っており、生徒の活動を増やす指導で、生徒達が自分の考えを書いて表すことに慣れ、ねばり強く学習する姿勢が現れてきた。



- ④ 5教科の基礎学力については、各教科共、県平均を上回ってきた。
- ⑤ 「国語の授業では、意見などを発表するとき、うまく伝わるように話しの組立を工夫している生徒が増え、数学の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書き表せる生徒が増加してきた。
- ⑥ 「人前で自分の意見を述べる」ことや、難解な問題にも「できるかもしれないから解いてみよう」というチャレンジ精神や自信が見られるようになってきた。

〈課題〉

理解の不足している生徒から、分からなかったことを先生や友達に質問したり、友達同士教え合ったりするなど、学力の二極化への対応についてが、今後の課題となる。そして、更なる自信とチャレンジ精神をはぐくむ方法の研究を実践していきたい。